

宮内庁書陵部所蔵九条家本『春日若宮御本地并大明神御垂跡事』〔九―80〕

(新補表紙外題)

「春日若宮本地事并大明神御垂跡事」

(旧表紙1外題…元外題を内側に改めて装幀)

「春日若宮御本地事并大明神御垂跡事」

(旧表紙2外題…見返側には反故の書状あり)

「春日若宮御本地事」

自大乘院注進、又本社之事惣而諸社等垂跡之儀別紙アリ、是ハ東南院前門主之注進也、但異等也、(秘カ)

(第一紙端裏)

「春日若宮本地事」

明応七十二五
大乘院 注進

(九条尚経花押)「

春日若宮御本地事

文殊候、令出現師子間給故也、

師子間者、大宮殿第一御殿与第三御殿之間於申也

御出現時分事、如仰長保五年候歟、不存知仕候、被構

別殿候事者、大治二年候、祭礼初候事者、保延三年九月候、

十一面之由、弘長二年祐賢注進之由、仰勿論候、異説候、

阿弥陀之由申説候、八幡大并令現若宮殿給云々、古筆万陀ラ

多以拜見仕候、大綱若宮分如此候、惣御本地者、尺・葉・地・観・文、

如此申伝候、但是モ異説共御座候、悉皆於南無大明神ト可

有御祈念候、如衆多灯交光於一室、貞慶上人式候、

明応七年十二月五日

「(第一紙)

一、小神 内院

(第二紙端裏)
「前東南院、阿弥陀院」
(覚尋) 自筆

注進 当社御事

大明神御垂跡当山事

一、自常陸国鹿嶋宮令渡次第

神護慶雲元年六月廿一日、伊賀国名張郡

夏身郷仁令渡御、

一、同年十二月七日、同国薦生中山数月之間令座

給、其時栗於奉備御供、彼栗味如天之甘露、火於

切天焚烹尔薰尔弥其味美麗也、依神勅所殘焚烹、

栗於時風・秀行殖于山、一夜之内件栗生、即奉

備御供、故彼山在栗林、為顯御靈驗、中臣連尔

殖栗之二字於所書加也、

一、同二年正月大和国安部山尔令渡給、

同年十一月九日、戊申三笠山頂尔宮柱立、御宝殿造天

令座御三所也、

一、神護慶雲四年正月十二日、戊寅三笠山下津磐弥南

向柱立、御遷宮、御殿奉副之、

一殿 鹿嶋武雷命御本地不空
羅索觀音 二殿 香取齋主命藥師

三殿 平岡天津児屋根命地藏并 四殿 相殿大日如来

一、御殿巽方座〔本定〕刀辛雄明神、其北座飛來天神、

同御殿後座〔梅本明神、所謂集明神是也〕、同御後座八龍神、

四御殿後座〔梅本明神、所謂天夜叉神是也〕、其北座佐軍神、

一、中院、御殿乾方脇戸際座椿本明神、〔所謂角振明神是也〕

其次座風御子、〔所謂金命是也〕、其西座中際金剛童子、

御殿坤方座〔岩本明神、所謂住吉明神是也〕、御前南座青神明神、

其次座辛神明神、其次座六栗明神、

其次座并栗明神、

一、外院、自御殿乾方三町去座

水屋明神、〔所謂牛頭天王是也〕

御殿坤角座榎本明神、〔所謂巨勢姫明神是也〕

自榎本社西一町去座祓戸明神、〔所謂瀬織津畔明神是也〕

自御殿西二町去座船戸明神、〔所謂岐明神是也〕

自御殿西十二町去座一言主明神、

同西十五町去座率河明神、〔所謂三枝明神是也〕

自御殿巽方五町去座紀社明神、〔所謂赤穂明神、嶋田明神〕

御前祐石立明神・天乃石吸明神、〔アマノイワスイ〕

同巽方十町去座白乳明神、〔其南座赤乳明神〕

一、若宮 御本地十一面觀音

長保五年三月三日、御出生、

長承四年二月廿七日、奉祝当所、

一、少神 内院、〔刀辛雄明神、御殿北座通合明神〕

外院

御殿北座兵十三上明神、〔符号ノ意ニヨリ位置ヲ改ム〕、其西座南宮明神、其北座一童、

御殿南座鬼母神、〔本定云々〕

其南座懸橋明神、

其南座卅八所・子守・勝手、

其南座佐良氣明神、

右注進如件、

弘長二年正月十一日 若宮神主中臣祐賢

写本云、

応永五年〔戊寅〕七月九日、於南都御笠山之

辺四恩院写之畢、

〔現鏡房、行年卅七〕

自道空房伝之、

」(第四紙)

※解題は、藤原重雄・坪内綾子・巽昌子「中世春日社社記拾遺」(根津美術館紀要『此君』四、二〇一三年)を参照。



hi-u.tokyo.ac.jp/mirador/?manifest=https://chloapi.hi-u.tokyo.ac.jp/iiif/81/data/kujo/kujo00001-00105/138/manifest

翻刻・巽昌子、校正・藤原重雄、版組・糸賀優理。https://chloapi.